

おおなん協育プロジェクト ～邑南町総がかり！協働で育む“協育”カリキュラムの開発～

《背景》

- ◎中国山地の山間にある約1万人の邑南町
- ◎高齢化率43%を超え、2040年消滅可能性としに名を連ねている
- ◎地域の未来を担う人材の育成が本校に求められている

《目的》

“ふるさとを思い 地域の未来をつくる人を育成する”

邑南町で就職や起業し、地域の発展に貢献する人や邑南町外にいてもふるさとへの愛着を忘れず、関係人口として地域を支える人。そのどちらの人材も、邑南町を持続可能な町として、未来を作っていく人である。このような人を私たちは育みたい。

ふるさとを思い地域の未来をつくる人を育むためのカリキュラムづくり
= “協育”カリキュラムの整備

ふるさとを思い地域の未来をつくる人を育むための土壌づくり
= コンソーシアムの組織化

《令和4年度の取り組み状況》

矢高モデルの確立 ～いつでも・だれでもできるカタチへ～

1 総合的な探究の時間のモデル化

- 校内体制の整備（校内8人体制へ）
協育パートナーの確保
- 教材の整備と更新
- 地域と生徒、教員の連絡系統の整備
→Google Classroomの活用

2 教科横断の土台の構築

- 校内教員研修の定例化
→各教科と探究のつながりを明文化
→現代文「インタビュー」と連携

3 地域とともにある学校設定教科「起業探究」の確立

- 起業探究Ⅰ及びⅡの実施
→次年度以降、必修科目へ
→地域を題材にした教材を制作
- ビジコンへチャレンジ
- 実体験の創出（模擬店実施）

4 自走体制の構築

- 教育課程外でも生徒が自走可能にする
→ボランティアボードの設置
探究ポータルサイトの制作
- 食と農研究会の可能性
→自ら活動資金を得るシステム
- 必要最低限の自走資金の把握
（バス代、謝金等）

《実施体制》

“矢上高校と地域の未来をつくる会”

令和3年度3月に設立
邑南町など14団体からなるコンソーシアムを形成

学習支援部会

協育パートナー

地域の大人たち12名
にて生徒の探究活動
の伴走を依頼。
役場等と調整し決定。

魅力化推進センター

校内で本事業を担当。
主幹教諭／邑南町役
場担当者／魅力化担
当教員／コーディネ
ーターからなる。

運営指導委員会

本事業運営への
指導助言

カリキュラム 開発専門家

カリキュラムへの
指導助言、講評

《成果と課題》

高校魅力化
評価システム

- 地域の課題について考える生徒：66.9%
- 将来自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う生徒：51.5%
- 地域社会などでボランティア活動に参加した生徒：39.6%



教育課程内での協育の体制は整いつつあるが、教育課程外での協育体制は未整備。総合的な探究の時間を軸とした教科横断や教育課程外の取り組みへの派生などへの取り組みが必要。

	成果	課題
総合的な探究の時間のモデル化	学年会や協育パートナーとの連携が強化された	全校での取り組みには至っていない →校内組織体制の強化
教科横断の土台の構築	お互いの授業や教科について話し合う風土を醸成しつつある	コンピテンシーベースの教科横断へは時間がかかる →教科に開かれた探究へ
地域とともにある学校設定教科「起業探究」の確立	耕作放棄地の利活用や、地域おこし協力隊に伴走していただくことができた	授業担当の確保や授業時間や日程への調整が必要 →地域人材との調整
自走体制の構築	地域に出かけるためのコンソーシアム公用車の活用で校外に出やすい環境づくり	十分な教育活動を行うためには自己財源が必要となる →クラウドファンディング